

## グローバル化とナショナリズム

政治・空間・場所 第7章  
第2部 空間・場所・領域

## 国家・領土・ナショナリズム

- 領域性の理解を基礎に**国家・領土・ナショナリズム**の相互関係
- 領土のもつ**イデオロギー効果**とは
- **グローバル化**は**国民国家**にどのような影響を及ぼすか

2

## 国民国家とは

- **国民国家 (nation-state)**
  - 政体(主権)、構成員、領土からなる政治的共同体としての国家 (state)
    - 主権=国際法上、国家が自立してその領土と構成員を統治しうる最高の権利
  - 社会・文化的背景を共有する文化的共同体としてのネーション=民族・国民 (nation)
  - ウェストファリア条約(1648年)以降
    - 国家の領土権、法的主権、その相互不可侵の原則が確認
    - 国民国家建設や民族自決権の基礎を構成
    - 「領土問題」の発生

3

## 国家とネーションとの関係

- 国家=ネーション
  - 日本、アイスランド
- 国家>ネーション
  - 中国(漢民族+少数民族)
  - アメリカ合衆国(多民族国家)
- 国家<ネーション
  - アラブ諸国
- 国家=ネーションは**理念型、政治的理想**
  - **現実的な不整合**
  - 様々な問題の要因にも

4

## アフリカ南部



5

## クルド族の分布(国家なき民族)



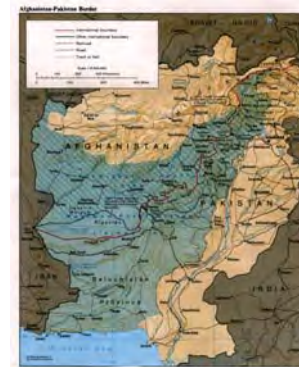
6

### アフガニスタンの民族分布



7

### パシュトゥン族の分布

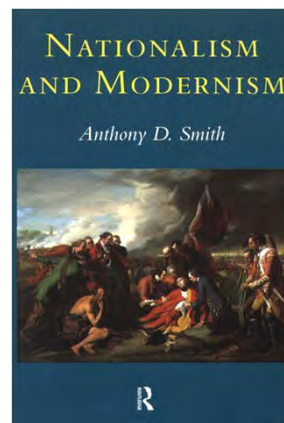


8

## ナショナリズム

- **ネイションの主権・自治・自決といった集合的権利を主張するイデオロギーや運動**
- 目標＝国家の形成・維持
- ネイションは国家を形成(しようと)する社会的統合性をもつ集団
  - 特定のエスニック集団によって代表される場合
  - その社会的・政治的文脈によって「国民」、「民族」、あるいはこの両者

9



10

## 民族自決(主義)

- 政治的理念
  - ネイションと国家(それに準ずる政体)を結ぶ
  - 国民国家の形成と維持を正当化する
- この理念の実現を可能とする不可欠の契機＝**領域、特に国家の「領土」**
  - 土地の領有(客観的条件)
  - 特定の土地に対する心理的愛着、帰属意識、アイデンティティ(主観的条件)
  - ナショナリズム研究では看過されがち

11

## ナショナリズムの理論(1)

- **近代主義アプローチ**
  - **道具主義** ↔ 原初主義アプローチ
  - 民族自決など政治目標達成のための道具
  - 資本主義世界経済の発展過程における国家権力獲得競争(例: 反・脱植民地化闘争)
  - 客観的な**政治経済的利益**、ナショナルな情緒も動員のための**資源**
  - 歴史を恣意的に利用・構築＝「伝統のねつ造」
  - 識字、メディア、教育を通じた「想像の共同体」
  - エリートが先導、大衆を動員

12

## ナショナリズムの理論(2)

- **非近代主義アプローチ**
  - ネイションを統合する紐帯＝同血統の祖先、同一言語、同一慣習(文化重視)
  - 起源は**近代以前**＝過去から継続的に存在(エスニー)
  - 出自が同じエスニック集団への**情緒・心理**
  - **国家より下位レベルのナショナリズムを説明**
  - ナショナリズム発現の構造的要因の説明は弱い

13

## ナショナリズムの理論(3)

- **グローバル化の視点**
  - グローバル化による**国家下位**のエスニック・アイデンティティ喚起(スコットランド独立運動)
  - グローバル文化、ポストナショナルな社会は訪れるか？
  - ネットワーク社会、移民の存在→国内・国家間にエスニック集団の**複雑なヒエラルキー**
  - 発展途上世界の不安定化と**難民発生**→ホスト国の社会的動揺、反移民・難民感情の悪化
  - **単層的より重層的視点**(EUのイスラム系移民問題)

14

## 領域的視点からのナショナリズム

- テキストから離れます
- 境界、領域、「領土の罫」
  - 古今書院『地理』6月号(2016年)
  - サックの領域性論
    - 実はナショナリズムについてほとんど論じていない
    - 国家の領土に応用できないのか？
    - 空間は権力の源泉となる→領土は主権の源泉となる

15

## 領域性の効果(1)

- 領域は一種の「**鑄型**」として作用する
  - 境界が引かれ、領域によって人々が管理されると、その領域を作り出した原理を通して特定の社会関係が構築・強化される
  - 女性専用車両の場合
    - 日常的な車両の利用を通してどのような社会関係が構築され、強化されるか考えてみよう
  - 物理的な行動制御の効果に加えて、特定の価値観や世界観を再生産する**イデオロギー効果**がある(「場所」を作り出すことも)

16



[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB%WomensCar,\\_KeioLine.jpg](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB%WomensCar,_KeioLine.jpg)

17

## 領域性の効果(2)

- **イデオロギーとは**
  - 社会はこうあるべきという世界観。しばしば現実を歪める。
- 領域性のイデオロギー効果
  - ① 視点のそらし
    - 管理するものと管理されるものがあるのに、管理される側には管理するもの(鉄道会社)が見えにくい
    - 本来の目的より空間を設置することが目的化する

18

### 領域性の効果(3)

- 領域性のイデオロギー効果
  - ② 社会紛争のあいまい化
    - 社会紛争の原因が領域間の問題にそらされる
    - 沖縄の復帰運動
      - かつて沖縄は日本に復帰すれば米軍基地問題が解消されると信じていたが、実際には？
  - ③ 権力の具象化
    - 領域の管理者の権威・権力に形を与える(可視化する)
    - 占領・征服した土地に国旗を立てる

19



[http://en.wikipedia.org/wiki/File:WW2\\_Iwo\\_Jima\\_flag\\_raising.jpg](http://en.wikipedia.org/wiki/File:WW2_Iwo_Jima_flag_raising.jpg)

20

### 「領土の罟」論(1)

- ジョン・アグニューUCLA教授
- 政治学や国際関係論が持つ**非常に単純化された(地理的)前提**を批判
  - 現実は見えない
- おそらく私たちがこの「罟」に陥りがち
  - 世界地図が示す世界とは
  - そこにどんな前提が隠れているのか？

21



22

### 「領土の罟」論(2)

- 前提①
  - 国家は明確に確定された領土に排他的な主権を行使できる(cf. 復帰前の沖縄)
- 前提②
  - 国家の内と外、内政と外交は明確に区別できる(cf. 自治体外交、国境地帯での交易、外国人労働者)
- 前提③
  - 国家の境界が社会の境界をそのまま画定している(cf. 国家とネーションとの関係、マイノリティ・移民社会)

23

### 国家の退場(1)

- グローバル化
  - 多国籍企業による貿易、投資、施設移転
  - 交通・通信手段・コンピュータネットワークの発達
  - 結果としての**時空間圧縮**
- ↓
- **領域的に固定された**現代国家の再構築を迫る

24

## 国家の退場(2)

- **新自由主義**
  - 規制緩和による経済自由化、市場・競争原理活用
  - グローバル化による諸現象の流動を領土的制約からさらに解放
  - 「**国家の退場**」を促進
    - 領土内での主権行使、社会経済的相互作用の制御が絶対的なものでなくなる
    - 資本・労働力の流入は**国民性・文化的均質性**を凌容

25

## 国家の退場(3)

- 核均衡による交戦可能性の減少→**国民統合**を弱体化
- インターネット→**国家の文化的コントロール**を困難に
- 地方分権の推進→ローカルな地域がグローバルな現象と直接関係(例: 自治体外交、海外企業誘致)=**グローバル化**
- ナショナリズムも弱まるのか?

26



<http://canada.futureglobe-edu.com/?day=20070128>

27

## 越境(入国滞在)する人々

- どれだけいますか?
- どこにいきますか?
- どうしていますか?

28

図17 外国人登録者数及び在留外国人数の推移と我が国の総人口に占める割合の推移

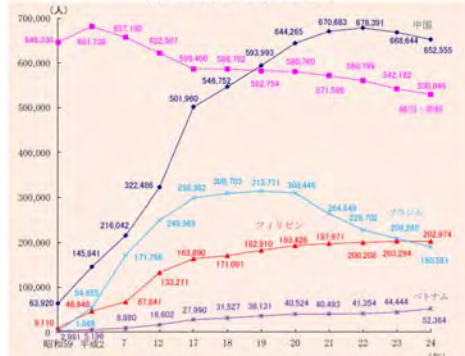


(注1) 本数値は、各年12月末現在の統計である。  
 (注2) 昭和60年までは、外国人登録者数、平成2年から23年までは、外国人登録者数のうち中長期在留者に該当し得る在留資格をもって在留する者及び特別永住者の数(外国人登録者数(短期滞在者を除く))、24年は、中長期在留者に特別永住者を加えた在留外国人の数である。  
 (注3) 「我が国の総人口に占める割合」は、総務省統計局「国勢調査」及び「人口推計」による、各年10月1日現在の人口を基に算出した。

<http://www.moj.go.jp/content/000117967.pdf>

29

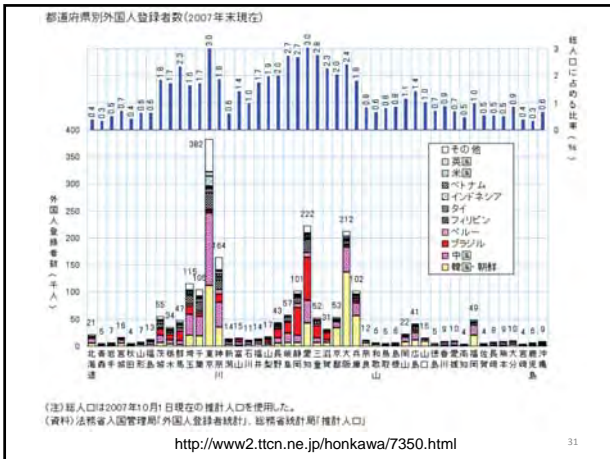
図18 主な国籍・地域別在留外国人数の推移



(注1) 平成23年までは外国人登録者数のうち中長期在留者に該当し得る在留資格及び特別永住者の数、24年は中長期在留者に特別永住者も加えた在留外国人の数の数である。  
 (注2) 平成23年までの「中国」は台湾を含んだ数であり、24年の「中国」は台湾のうち、通に国籍・地域別に「台湾」の国籍のある在留者を一区分で特別永住資格取得者の区分を受けた人を入れた数である。

<http://www.moj.go.jp/content/000117967.pdf>

30

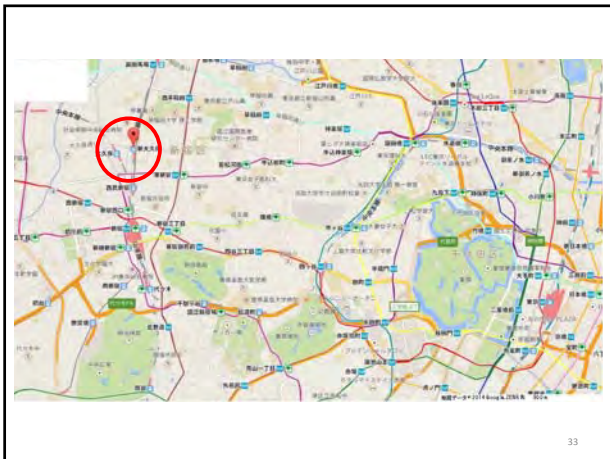


## 外国人集住都市

- グローバル化による外国人流動
- 大都市の「世界都市」化
- 外国人集住による「国境」都市への変化

## 大久保コリアタウン

- 東京都新宿区大久保・百人町
- 32万の住民の9人に1人が外国人(2010年)
- 2003年調査、2011年再調査





### 領土とナショナリズム

- 「領土の罣」論が指摘するように、領土は主権によってすきまなく覆われているわけでも、均質な社会を包んでいるわけでもない。
- しかし人々はそう考えがち
- 国境や領土の外から入り込むものに対してどう反応するか
  - 移民の流入
  - 領海の侵犯
  - しかし、国防を強化し、外国人や外国企業を排除すれば不満は解消されるの？

41

